

2019 World Rowing Coastal Championships NTO 参加報告書

FISA 審判員 (1371、神奈川県ボート協会所属) 隈元 幸治
FISA 審判員 (1265、愛知県ボート協会所属) 田畑 喜彦
FISA 審判員 (1782、東京都ボート協会所属) 山崎佳奈子

1. はじめに

香港ビクトリア湾にて開催されました 2019 世界沿岸ローイング選手権に NTO として 3 名参加いたしましたので、ご報告します。

同会場では昨年 2018 Asian Rowing Coastal Championships がリハーサル大会として開催されました。

2. 大会概要

(1) 開催期日 2019 年 11 月 1 日 (金) ~11 月 3 日 (日)

(2) 会 場 Victoria Harbour Hong Kong (Kellett Island, Causeway Bay, Hong Kong)



図-1 会場位置



図-2 大会イメージ

(3) コース 予選・順位決定 4km (TP1>TP2>>TP3>TP4>TP5)

決勝6km (TP1>TP2>TP3>TP4>TP5>TP1>TP2>TP3>TP4>TP5)

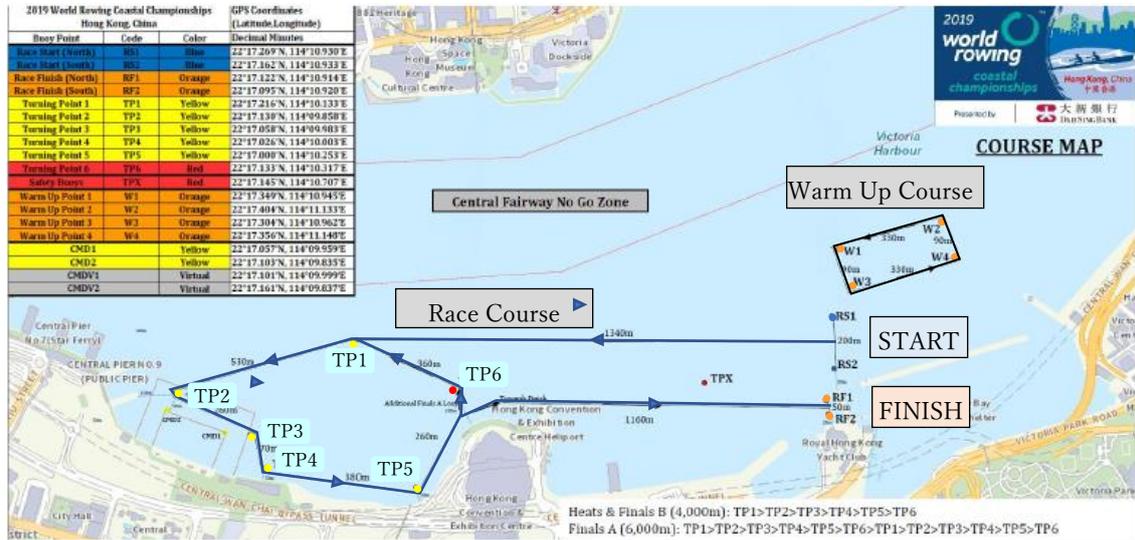


図-3 コースレイアウト

(4) 開催種目 7 種目

Men (M): CM1x, CM2x, CM4x+

Women (W): CW1x, CW2x, CW4x+

Mixed (Mix): CMix2x

(5) 参加国 28 ヶ国

American Samoa, Australia, Austria, Brazil, Canada, People's Republic of China, Cyprus, Croatia, Czech Republic, Denmark, Spain, France, Great Britain, Germany, Greece, Hong Kong China, Ireland, Italy, Japan, Monaco, The Netherlands, Philippines, Russia, Switzerland, Sweden, Ukraine, United States of America, Vanuatu

(6) Jury Members (ITO)

President of Jury	SENDA Takao	FISA 1230
Deputy - President of the Jury	SIU Kin Wah	HKG 1228
Members	SMITH Gregory Edward	AUS 1613
	NEIRINCKX Chantal	BEL 1243
	CASTRO GOMEZ Miguel	CUB 1137
	HAAGENSEN Kasper	DEN 1764
	GUTIERREZ PRAENA Daniel	ESP 1729
	BOREL Régis	FRA 1565
	HELM Ben	GBR 1644
	PANKATZ Daniel	GER 1750
	HAN Kyunghwan	KOR 1632
	DAUKANTAS Edmundas	LTU 1517
	WIDUN Anna	POL 1619
	HERRERO III Ismael	PUR 1269
	HAMMAMI Aymen	TUN 1642
	TIERNEY Drew	NZL 1365 NES1



写真-1 ITOメンバー+FISA 審判委員会メンバー

(7) Jury Members (NTO)

NTO Lead WONG Hang Tim(Candy)

NTOs (HKG) YU Tak Fai, Elizabeth WRAY, LAM Ho Kwan, TANG Tik, KWAN Ka Chung, NG See Hung, CHEUNG Kwok Keung(John), CHO Ming Kiu(Issac), LAU Sui Tung, CHUM Pong Ching(Sarah), HON Sio Na, LEUNG Ying Kit, LI Wai Lam, LEUNG Lai King(Haidi), WONG Kar Man(Carmen), CHAU Bentley, CHAN Seung Yu, LO Tze Yang(Elaina)

NTOs (JPN) Yoshihiko Tabata, Koji Kumamoto, Kanako Yamazaki (Cathy)

NTOs (GER) Jens Wiesner



写真-2 NTOメンバー

(8) レーススケジュール

10月30日～31日 練習日

11月1日 予選

11月2日 予選、順位決定

11月3日 順位決定、決勝

3. 審判部署配置

	ITO	NTO	NTO' Duty
Control Commission	5	8	Pool Boat Marshal (配艇) Pool Boat Marshal (装備とダメージチェック) Accreditation (選手登録) In and Out control (出艇、帰艇棧橋監視)
Start	2	1	Assistant Starter (スタートエリア補助)
Judge at the Start	1	1	Aligner (艇揃え)
Finish	1	1	Finish Judge (ブザー、着順読み上げ)
Turning Point Umpire	3	4	TP2,TP5,TPX,Pier10 Umpire(ターニングポイント審判) Pier 10 Key Turning Point ITO assistance

Race Umpire	2		
Marshals		5	Star Ferry Marshal (スターフェリー航行監視) Warm Up area Marshal (練習エリアマーシャル) Start Area Marshal (スタートエリアマーシャル)

(1) Control Commission

本大会の使用艇は一部自艇参加クルーを除き全て Swift Racing 社のものを使用し、艇・オール共配艇方式で行われた。

HKG の NTO が配艇担当についていたが、クルーから練習艇と同じ艇をレースでも使いたい、同じ国のクルーは同じ艇を使いたいなどの希望が多く、そのために艇の割り当てにとても時間がかかった。直前の割り当てとなるため、各部署の審判はボート No.がわからないため、書き出されたボート No.を WhatsApp で共有していた。



写真-3 貼り出された配艇結果

大会本部に充てられたのは日本でもおなじみの Royal Hong Kong Yacht Club の Club house であり、英国調の風格ある由緒正しき雰囲気醸していた。

しかし本コースの問題点は出艇・帰艇 棧橋として定められたものが無く、写真-4 に見える狭い水面から全てのレース艇が出入りする。またその上、レースに出ている艇が戻り次第 1 時間後にそのまま次のレースに割り当てるスケジュールになっており、帰艇した艇がダメージチェックを受けて GPS を外し、国名を貼り直し、自分の GPS をつけて出艇するまでの作業がこのスペースで行われていたため、とてもバタバタした印象だった。



写真-4 水面へのアプローチ状況

ステッカーの貼り間違いも多く、いくつかのクルーが ITO の指摘を受けていた。

出艇では、以下の項目を ITO と共にチェックする。

- ① 選手の確認（名前とクルー名、リストバンド）
- ② ステッカーの確認（国名、ボート No. 正しくつけられているか）
- ③ 装備の確認（排水栓が閉まっているか、人数分のライフジャケットを装備しているか、ヒールロープは正しく結んでいるか。牽引ロープはついているか、デッドウェイトを持っているか）
- ④ ユニフォームのチェック（全員統一されているか、前面と背面に決められた名前があるか、コックスはライフジャケットを着ているか）

本大会ではユニフォームの前面に個人名と国コード、背面に国コードを付ける事になっていたが、通常の大会のユニフォーム規定と違うため、名前がついていないクルーが多かった。ゼッケン



写真-5 Boat ID"103" Crew ID"GBR 03"



NF: Canada / Crew ID:CAN03 / Boat ID:403

写真-6 牽引ロープのチェック

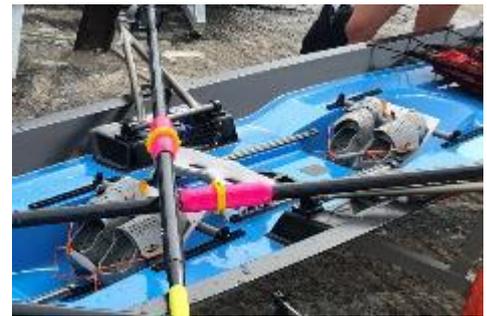


写真-7 左から排水栓、ライフジャケット、ヒールロープのチェック

をつけて参加したクルーもいたが、出艇時についていないクルーについては、マスキングテープに国名と氏名を書き、ユニフォー

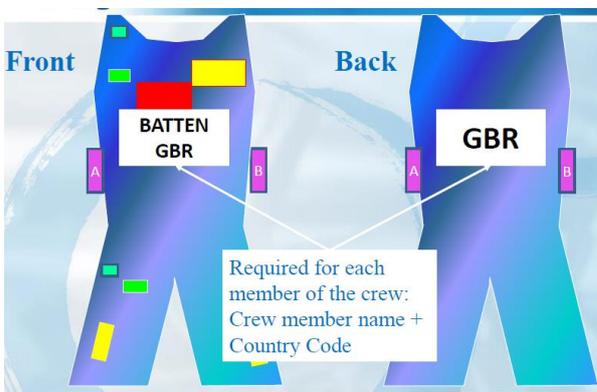


図-4 ユニフォーム ID



写真-8 ユニフォーム ID のチェック

ムに貼り付ける形で出艇させていた。

- ⑤ GPS のチェック（GPS が取り付けられているか）
- ⑥ サインイン（水上に出る前に時刻とサインをする）しているか

⑦ イベント毎に全てのボートが水上に出たか

帰艇時には以下をチェックする。

- ① ボートダメージ（大きな傷が無いか、オールが折れてないか）
- ② デッドウェイトの確認（デッドウェイトを持っているか）
- ③ 艇計量クルーの指示・誘導（艇計量対象クルーに艇計量所に行くよう指示をし、ボランティアに引き継ぐ）
- ④ イベント毎に全てのボートが戻ってきたか



写真-9 デッドウェイト（鉄板）



写真-10 GPS



写真-11 艇計量所

(2) Judge at the Finish

今大会では1レース最大16艇によるレースが行われた。公式タイムはFISAの記録システムにより行われるが、コースタルの特徴としてスタート、転回ブイでのペナルティがJudge at the Start、UmpireからJudge at the Finishに連絡される。このため決勝戦通過の見た目の順位とペナルティを加算した真の順位が異なることになる。



写真-12 判定所と静止カメラ（左上）

① 施設

前述のように判定は2台の記録システムによって行われる。ITO1名、NTO1名が判定部署に配置されたが着順の読み上げとブザー、着順の記録を手分けして行なった。この背面にはSwiss Timing社のクルーが機材と共に陣取り速やかな記録配信を心がけた。

② 手順



写真-13 スタート状況



写真-14 Judge at the Start



写真-15 右側黄色いブイがTP2

発艇後、正常なスタートかどうか、Judge at the Startから無線が入る。False Startがあった場合、そのクルー名が告げられるため、2分間のペナルティを与える。以降、Turning Buoyまたはモー

ターの Umpire からペナルティの有無が無線にて連絡される。

③ ペナルティの処理

CW4X+FA でのペナルティの処理例を右に示す。スタートで Boat ID412 の ESP1 が False Start、TP2 で Boat ID420 の MON1 が接触し、それぞれ 2 分、1 分のペナルティを与えられた。

決勝戦通過順は手書きの通りであったが、判定システムの記録により ESP1 は 2 分のタイムペナルティで MON1 の次に、さらに MON1 は同様 1 分のペナルティで HKG2 の下位となり、繰り上がりで HKG1 が金、以下 RUS1、DEN1 となりこの結果が正式にリリースされた。

④ 課題

コースタルのスタート方式やペナルティはヨットのレース方式が導入されたものと思われるが、途中ペナルティを課せられた場合、主審が白旗をあげたと言っても決勝戦線通過順が着順になるわけではない。ゴール後メダル確定と思って歡喜しているクルーとその応援者が上述したようなペナルティ反映の結果、上陸後の Result Sheet では着順が入れ替わってしまっていることである。

この点に関しては判定所近くの本部席にいた Jean-Christophe Rolland 会長も言及しており、すぐとはいかないもののいずれは解決したいと言われていた。

Boat ID	Crew	START	TP1	TP2	TP3	TP4	TP5	FINISH
415	SUI 1							
409	IRL 2							
401	HKG 2							
414	IRL 1							
402	NED 1							
411	ESP 2							
408	USA 1							
405	RUS 1							
420	MON 1							
412	ESP 1							
404	HKG 1							
403	NED 2							
416	DEN 1							
407	USA 2							
406	DEN 2							
413	USA 1							
410	NED 2							
418	SUI 2							

Handwritten notes on the board:
 - 412 ESP1 (2 min)
 - 420 MON1 (1 min)
 - 409 IRL2
 - 403 NED2

写真-16 CW4X+FAの着順判定表

3. 最後に

今回日本からの 3 名の NTO を香港漕艇協会は快く受け入れ、歓待してくれた。日本では日本ボート協会内にコースタル委員会も設置され、今後国内でのコースタル大会開催に向け活動も活発になるがコースタル先進国となった香港での今回の経験を国内大会へ反映できればと考えている。

2019 年 6 月 9 日、「逃亡犯条例」改正案を巡り発生した 100 万人を超えるデモは警察との衝突、インフラの破壊など先鋭化し、未だ鎮静化の兆しは見えない。大会期間中も会場周辺にデモ隊が集結したり、そのデモにボランティアの学生が一斉に参加してしまうなど、様々な影響が見られた。一刻も早く鎮静化して、これまでのような平和で魅力ある香港に戻って欲しい。

以上



写真-17 大会終了後の NTO



写真-18 表彰式会場